

# 月例会ダイジェスト

令和 **元** 年度

4月  重村智計先生	5月  渡部恒雄先生	6月  高橋利行先生
7月  原田義昭先生	9月  橋田俊彦先生	10月  古川隆久先生
11月  ペマ・ギャルポ先生	12月  高橋利行先生	新年会  岸 信夫会長代行

※8月はお休み。2月、3月の月例会は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止いたしました。

発行 公益財団法人 協和協会



### 重村智計先生

朝鮮半島問題研究の専門  
家、早稲田大学名誉教授、  
現・東京通信大学教授

北朝鮮の実力として、GDPは韓国の3分の1程度の約1兆円、国家予算は韓国の100分の1程度で約80億円、石油輸入量はわずか70万トン程度なので、戦争ができる状態にない。

米朝第2回目の首脳会談がなぜ決裂したのか？については、トランプの主張が、(1)核兵器や化学兵器の廃棄、(2)核施設工場の破壊、(3)核査察の受入れ、(4)核科学者の追放、であり、そのすべてが行われた後に制裁解除する、というもの

であったが、これら条件が、金正恩には伝えられていなかったようで、トランプからこの条件を突きつけられて、金正恩は何も言えなくなり、トランプへ「時間をくれ」といい、トランプも多少の猶予を与えたようである。そこで、その後の金正恩の言動をみると、秋までに、朝中首脳会談、朝ロ首脳会談、そして、南北首脳会談を考えており、また、それまでにトランプとの間で制裁解除の空気を作ろうとしているように見える。また、金正恩は、「核兵器の廃棄」に猛反対している軍勢力を抑えるべく、これまでの軍主導から党主導へと移行することに全力を挙げようとしているように思われる。等々の御解説があった。なお、米韓関係は、4月11日の米韓首脳会談は僅か数分間であり、そこから、トランプは、文在寅を「北朝鮮の手先」と考えて見捨てており、経済状況も悪く、末期的状態にある。等々解説され、重村先生のすばらしい分析力に、一同感銘いたしました。(清原記)



### 渡部恒雄先生

笹川平和財団上席研究員、  
ワシントンDCのCSIS  
元上級研究員

まず自己紹介として、父は政治家の渡部恒三(衆議院議員、通産大臣、自治大臣、厚生大臣、衆議院副議長)だが、私は当初、歯科医師になった。なぜか。それは、父は金がなかった。母が歯科医で父を支えていたので、私もとりあえず歯科医になった。しかし、社会科学に対する意欲も捨てがたく、アメリカに留学して勉強し直し、その大学院で政治学修士を取り、ワシントンDCにあるCSIS(戦略国際問題研究所)に入り、上級研究員に

なった。今は笹川平和財団上席研究員を務めている。

さて、トランプ大統領だが、過去に一度も公職の経験はなく、テレビショーでエンターテイナーとして人気を博したのが基本にある。トランプ自身、大統領選に勝つとは思っていなかったため、政権移行チームの準備もしていなかった。したがって、大統領になったもののその人事は混乱した。ジョン・ケリーが首席補佐官、ロブ・ポーターが秘書官になって落ちつき、またこの時期は伝統的なリアリズムに基づく国際主義者ジム・マティス国防長官の方針に従い、「アメリカの力による平和」「同盟国は我々を強くする」などと言っていた。ところが、2018年1月、ロブ・ポーター秘書官が二人の前妻に家庭内暴力を振っていたことが発覚して秘書官を辞任してからは、流れが変わった。もはや誰も、トランプをコントロール出来なくなり、「リアリズムに基づく国際主義」の話も聞かなくなり、いまはトランプ大統領の唯我独尊状態にある。(清原記)



## 高橋利行先生

政治評論家、元読売新聞  
論説委員・編集局次長・  
新聞監査委員長

「衆参ダブル選挙」は、まずないだろう。過去には、1980年と1986年の2回ダブル選挙があった。前者は、自民党が過半数を占める中での内閣不信任案が予想に反して可決された「ハプニング解散」だが、この時は、大平正芳首相が選挙期間中に逝去して弔い合戦となり、自民党が勝利した。後者のダブル選挙は中曽根首相の時であるが、追加公認を含め自民党は304議席を取り大勝した。今回もしダブル選挙となれば衆議院が小選挙区となって

初めてだが、ダブルとはならないと思う。

次に「自民党は今回の選挙に勝てるか」だが、安倍首相の支持率は40数%と高いが、自民党支持率は30%前後なのが不安材料だ。与党公明党の支持者が高齢化してきて力が弱まっているのも問題だ。安倍政権の政策で大きいのは安保政策だが、北朝鮮の拉致問題が解決できるか、ロシアとの北方領土交渉はどうか。しかし国民の選挙での関心は、外交よりも経済である。いま浮上している「年金2000万円問題」もある。

続いて「参議院通常選挙の情勢分析」。複数区では自民党が1つは取れるが、複数区に2人立てているところが4区あり、そこで、1人が票を取り過ぎると他の1人が落選となる。一人区は32あるが、青森、山形県では議席を取り戻せそうだが、滋賀、愛媛はどうか？ 結論的には、自民党が少なくとも58～59議席は取れるだろう。自民党が勝てば、安倍四選へと向かうだろう。(清原記)



## 原田義昭先生

環境大臣・衆議院議員、  
元文部科学副大臣・財務  
金融委員長・外務委員長

海洋プラスチックゴミ対策は、2017年、ドイツで開催された「G20」で初めて取り上げられたが、今年の主催国日本から、このプラスチックゴミを計画的・継続的に減少させるために、毎年、参加国の担当者が一同に会し、自国の廃プラスチックゴミ、海岸へ漂着するプラスチックゴミの処理状況を発表することにつき合意を見た、との報告があった。

その他の大臣の報告としては、CO<sub>2</sub>の削減に

ついては、カーボンプライシング、即ち、企業や家庭が排出する炭酸ガスについて、そのCO<sub>2</sub>の量に価格を付け、その排出量に応じて課税する方式も一部先進国が採用しているので、わが国も検討している、とのことであった。

なお、原田大臣が通産省に入省した当時は、環境対策をすることは企業の活動を阻害するものと考えられていたが、いまは産業と環境が対立するものではなく、産業と環境とが互いに共生する「地域循環共生圏」を作ることこそ、社会の発展、地方の再生に繋がるという考えに立って政策を進めている。等々の御解説があり、国政に戻るため、退席された。

そのあとは、当財団の中島稔理事兼科学技術部長が議長となり、一同にて意見交換を行った。(清原記)



橋田俊彦先生

気象庁前長官、気象庁元  
予報部長

地球上で工業化が始まった1880年から2012年の間で、気温が0.85度上昇している。数々の統計資料を分析すると、太陽周期による自然原因は最大で約0.1度であり、火山噴火やエルニーニョ現象など自然的な要素もあるが、その主原因は、大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の増加という人為的な要素による、と考えざるをえない。また、異常気象とは、「ある地域、ある時期において、30年に1回以下の頻

度で発生する現象」と定義されている。世界の平均気温の予測統計では、このまま、温室効果ガスの排出が続けば、気温はますます高くなって行くであろうし、年平均降水量も増加する可能性が高い。日本だけ見ても、平均気温は約4.5度上昇、猛暑日は年間20日、大雨発生も2倍以上になるだろう、とされ、これに対する対策についても種々言及され、国は早急に対策を立てる必要があると痛感いたしました。（清原記）



古川隆久先生

歴史学者(日本近代史)・  
日本大学文理学部教授

当初のころに、昭和天皇は、A級戦犯の東京裁判があり、世間による天皇の戦争責任論に胸を傷めておられ、戦争に入りたくなかったが、当時の軍部の専横下ではそれも出来なかった。退位ないし譲位を辞さない心境だが、道義上の責任を自覚すればこそ、再建のために一層務めたい、との趣旨を述べられている。また、サンフランシスコ講話条約により独立が認められた昭和27年4月に、独立回復を祝う式典でのお言

葉の原稿に、先の戦争について国民に深い悔恨と反省の気持ちを表明する箇所が、吉田総理により削除された事情も記されている。なお、新聞報道などで、独立後は憲法を改正して再軍備すべしとある箇所が問題になっているが、私は、吉田元総理も岸信介首相も、当時、国連に加盟するためには、「自分の国は自分で護る」独立主権国家体制(再軍備)が必要と考えていたことを、ここに記し、昭和天皇のお考えも当然であることを、付言しておきたい。（清原記）



ペマ・ギャルポ先生

桐蔭横浜大学・大学院教授、御専門は国際政治・国際関係論

共産中国前までは、多くの民族が独立の国家をつくり、中国とも共存してきた。しかし、チベットの場合、1950年(昭和25年)、共産中国は、チベットへ侵攻・制圧し、120万人ものチベット人を虐殺、6000箇所のチベット寺院を破壊・閉鎖した。そしてチベット王ダライ・ラマを海外へ追い出し、広大なチベット国を中国へ編入し、自治区として今日に至っている。

チベット国の北に位置するウイグル族の東トルキスタン国も、中国軍が侵攻・制圧していまは「ウイグル自治区」とされている。ウイグル民族は、トランプ大統領が言うように、数百万人が抑留所へ入れられ鎖につながれている。また、ウイグル人は体内にGPSを埋め込まれ、常に監視されているという。

アメリカや欧米諸国は、天安門事件以降、「中国も豊かになれば、民主化が進むだろう」と見ていたがそうはならなかった。香港も、返還に当たり50年間、一国二制度を守ると約束していたのに御覧のような状況だ。また中国は、南太平洋諸国の各議員に1人1億円ずつ渡して懐柔している。共産中国は一貫して、一党独裁・覇権主義の国家である。日本人も肝に銘じていただきたい。

(清原記)



高橋利行先生

政治評論家、元読売新聞論説委員・編集局次長・新聞監査委員長

歴代の首相在籍記録を見ると、1位が安倍晋三現総理、2位が桂太郎、3位が佐藤栄作、4位が伊藤博文、5位が吉田茂で、1位から4位まで長州(山口県)出身者である。政権を長く維持することは、なかなかたいへんなことであり、しかも、8年連続であるから、「大宰相」といってよい。

いま、国会は、いつ衆議院解散があるかに関心が集まっている。この1年は、安倍総理も、外交関係で世界を飛び歩き、かなりの成果を挙げたが、

内政・経済面では苦しんだ。しかし、心配された消費税増税もいろいろと手を打ったお蔭もあり、予想されたほどの反動もないようだ。

そこで、令和2年だが、秋には、「桜を見る会」などの問題が出て、野党が騒ぐので、新年早々国会解散があるのではないかと取り沙汰されたが、その後、自民党国会議員の不祥事がいろいろ出てきて、現時点では、解散しても、自民党が3分の2以上を確保するのはむずかしい状況だ。また、予算案を成立させ関連法案を通す必要があり、選挙どころではない。その後も、夏にはオリンピックがあり、解散はおそらくないだろう。もう1回、安倍さんで行こうという可能性が高い。

政治・経済とも、トランプ大統領が再選されるかに影響される。最近、日本、中国、韓国の首脳会談で北朝鮮の核・ミサイルを廃止させることに一致したと楽観ムードだが、追い詰められた北がミサイルを打ち込んでくることも考えるべきだ。

「公益財団法人 協和協会」「時代を刷新する会」共催の  
新春懇親会の開催を、心よりお慶び申し上げます。

両団体とも、私の祖父・岸信介が創設した会であり、以来、  
設立の精神に則り、永年に亘って活動されている皆様は、  
敬意を表しますと共に、衷心より感謝申し上げます。

新春を迎え、内閣総理大臣として、改めて重い責任を胸に  
刻み、皆さまの御期待に沿うべく、全力を傾注いたす所存で  
あります。

内政・外交とも、課題は山積みしておりますが、果敢に  
挑戦し、実績を積み上げていきたいと考えております。

今後とも、会員の皆様から、一層のご指導ご鞭撻を賜り  
ますよう、お願い申し上げますと共に、本日お集まりの  
皆様方のご健康を心よりお祈り申し上げます。

内閣総理大臣

安倍晋三



▲ 安倍晋三総理よりの祝辞は、開会冒頭、壇上にて、清原淳平専務理事が代読いたしました。



## 岸 信夫

代表理事 兼 会長代行  
衆議院議員、議院運営  
委員会筆頭理事

あけましておめでとうございます。

由緒ある「公益財団法人 協和協会」と「政治団体  
時代を刷新する会」共催の新春懇親会の開催心から  
お喜び申し上げます。本年も皆様にお目にかかるの  
楽しみにしておりましたが、政務のため出席できず、  
申し訳ありません。現在、私は国会対策筆頭副委員長、  
議院運営委員会筆頭理事として、国会の運営の責任の  
重大さを日々、身に染みて感じております。昨年  
は元号が平成から令和に変わり新しい時代の幕開け  
となりました。心からお祝い申し上げます。

国内に目を転じますと、少子高齢化問題、昨年の保

育と幼児教育の無償化に続き、今年は高等教育の無償  
化があり、そして年金制度、医療制度など社会保障の  
改革も、大きな課題であります。

そして、この夏に開かれるオリンピック・パラリン  
ピックは日本経済効果が大きい期待されているところ  
です。また憲法改正は来るべき通常国会の憲法審査  
会において、与野党の枠を超えて活発な議論が展開  
されることを期待しています。外交では米中の貿易摩  
擦、中東地域での軍事的緊迫、そして北朝鮮とは拉致  
問題とミサイル発射対策があり、中国やロシアとの外  
交等々、国際問題も多岐にわたっていますが、日本は  
日米同盟の強固な基盤の上に立ち、粘り強く展開して  
いく必要があります。このように新しい年に際しまし  
て、決意を新たにこれからの国民の生活と未来を守る  
ため全力を尽くしてまいりますので、今後ともご指導  
ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

**岸信夫先生は、この日、政務のためやむをえず欠席  
となった。事前に書いておられた「年頭挨拶」は、  
岸信夫議員の信頼厚い、議員会館結めの永瀬祐見子  
秘書に、壇上に上がり、代読していただいた。**

諸先生からスピーチをいただきました（発言順）



**大日方鴻介・(公財) 協和協会理事、現代日本書家協会会長、日本春秋書院院長。**現代日本書家協会の公募展を今年も4～5月頃開催します。また、日本春秋書院の書道展も、春に六本木の国立新美術館にて開催いたします。どうぞお越してください。



**坂本忠彦・環境技術委員長** ((公財) 協和協会理事、(一社) 日本大ダム会議顧問、元建設省土木研究所長) 今年には北海道も長野も雪がほとんど降っていない。台風の勢いが増している。これらは地球温暖化の一現象なのかなと思っています。



**松本治男・交通部会長** ((公財) 協和協会理事、元中部管区・近畿管区警察局長) 交通死亡事故が減少している理由。1つは高齢運転者の認知機能検査と高齢者講習をはじめた効果。2つ目は、自動ブレーキ車が普及してきている点が挙げられます。



**大野松茂・政治経済部会長** ((公財) 協和協会理事、元衆議院議員・内閣官房副長官(政策担当)) 福祉と健康、そして生きがいとしての学習は正に一体。政経部会でこうしたことを引き続き議論していき、できれば政策提言をしていきたいと考えております。



**乾杯の挨拶と音頭**  
**長友正治先生** (時代を刷新する会評議員、日本技術士会理事) 本日は皆さん私より若いお元気な方ばかりで顔を拝見できてよかったです。皆様の御健康とご繁栄を祈念して乾杯させていただきますと思います。乾杯!

※長友正治先生は、大正10年(1921年)7月29日、満州の営口生まれ。ことしは白寿。来年は百歳になられる大長老です。それほどのご高齢でいらっしゃるのに、環境技術委員会、新エネルギー委員会には、毎回出席されており、頭脳明晰で、たいへんお元気なことに、驚かされます。戦中に技術者としての道を歩まれ、後半生は、産業設備コンサルタントとして、ご活躍されました。



**ペマ・ギャルポ先生** (桐蔭横浜大学・大学院教授(御専門は国際政治・国際関係論)「昨日のチベット、今日の香港、明日の台湾」と言われています。それどころか「明後日の沖縄」になる可能性さえある。「自由で開かれたインド太平洋構想」を進めていってほしい。



**三輪建二先生** (星槎大学大学院教授、御祖父は三輪寿壮元衆議院議員) 祖父は、一高時代に岸信介氏と同級生でした。祖父は労働運動にかかわり、岸氏は国家官僚として国を改造する、と進む道は異なりましたが、二人は仲がよかったようです。



**関田康慶評議員** ((公財) 協和協会評議員、東北大学名誉教授、東北福祉大学教授) 高齢社会に日本はどう向き合うべきか。これはピンチであると同時にチャンスでもある。老人の機能を助ける産業をどんどん起こしていけばいい、と思っています。



**多村繁樹理事** (元京王プラザホテル代表取締役社長) 今年、喜寿を迎えます。昨年は後期高齢者になり、10何時間の大手術をへて復活いたしました。オーバーホールは終わりました。今年元気いっぱい頑張っていきたいと思っています。



**倉島恵美先生** (税理士、安倍晋三総理は小～大学の同窓) 安倍晋三総理とは成蹊小学校1年生からご一緒させていただきました。誤解されているかもしれませんが、安倍総理は平和主義者です。これからも安倍総理をよろしく願います。



**高橋利行先生** (政治評論家、読売新聞元解説部長・論説委員・編集局次長・新聞監査委員長) トランプが再選を果たしたら、もっと好き勝手なことをやりますよ。誰にその暴走を止められますか。安倍晋三という人しかないので。ぜひとも四選すべし。

## 「公益財団法人 協和協会」設立趣旨と活動概要の説明

——外に対しては万邦協和、内においては政財官学民の協調和合——

当協会は、岸信介元総理を会長として、昭和49年12月、当時の総理府所管の公益法人として設立された。第2代会長は福田赳夫元総理、第3代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第4代会長として塩川正十郎元財務大臣、第5代会長代行に江口一雄元衆議院議員、現在は、会長代行として岸信夫衆議院議員。

その設立趣旨は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算の次元を超えて、真に国家的見地から、わが国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献すること」を目的とする。政・財・官・学・民各界の有志をもって構成され、月例講話会に加え、内部に8つの部会と4～5の委員会があり、それぞれ専門家が集まり、これまでに政府へ137本の要請書を提出している。

### 〔現会長代行・岸信夫衆議院議員・議院運営委員会筆頭理事の経歴〕

平成27年4月1日付にて、当団体の6代目会長代行・代表理事に就任。当団体の創立会長・岸信介総理は御祖父であり、安倍晋三総理は御実兄。

岸信介先生も、御出生時は佐藤家であったが、のちに、ゆかりの深い岸家を相続された。同様に、岸信夫先生は、御出生時は安倍家であったが、母方の岸家を相続された。佐藤栄作総理は大伯父にあたる。即ち、岸信夫先生は、血縁・戸籍上ともに、岸信介総理の直系の御孫である。そうした御血統からも、当団体の会長代行就任は、誠に正統といえる。

1959年（昭和34年）4月1日生まれ。長じて慶應義塾大学経済学部を卒業され（昭和56年）、住友商事に入社し、アメリカ、ベトナム、オーストラリア等に勤務。平成14年退社して、政治家の道を志し、平成16年7月の参議院通常選挙に出馬して初当選。平成22年7月の通常選挙にも再選を果たす。福田改造内閣・麻生内閣において、防衛政務官を務める。

そして、平成24年11月16日の衆議院解散を受け、同30日、参議院議員を辞職し、山口2区から衆議院選挙に出馬し、民主党候補を破って見事当選し、衆議院議員。翌平成25年9月の安倍晋三内閣で外務副大臣。次いで、平成26年12月の衆議院解散による総選挙で再選。衆議院議院運営委員会理事・自民党国会対策副委員長として、先の「安保国会」で尽力。平成28年1月より衆議院外務委員長を務め、同年8月より1年間、再び外務副大臣を務める。平成29年10月の総選挙にて三選。現在、衆議院議院運営委員会筆頭理事・自民党国会対策副委員長。

## 公益財団法人 協和協会

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-9-6 十全ビル 606

☎ 03-3581-1192 FAX 03-3507-8587

監修 清原淳平代表理事兼専務理事

発行 令和2年4月15日

<http://www.kyowakyokai.or.jp/>



8 ページです！